

平成30年度 晴海中学校 自己評価報告書

中央区立晴海中学校 住所 中央区晴海1丁目5番3号
 校長 小谷 周一 副校長 山崎 雄功
 生徒数 467名(3年149名、2年144名、1年174名) 学級数 14
 教職員数 教員 28名 都講師3名 区講師 6名 ALT 1名 栄養士 1名
 職員(主事) 4名 カウンセラー1名 学習指導補助員 4名

教育理念 共生 LIVE TOGETHER MAKE A COMMUNITY
 教育目標 健やかな人 思いやる人 考える人 創造する人

重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標の評価について

○教職員の自己評価

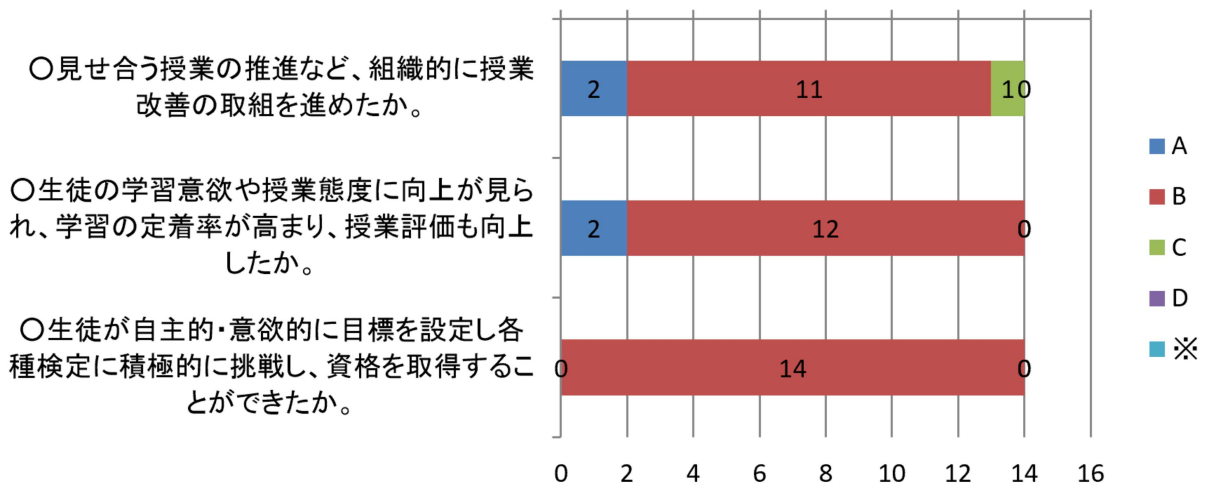
昨年度は肯定意見が94%で重点目標1は90%、2は98%、3は97%であった。今年度は、重点目標1では97%、2は100%、3は85%と全体では昨年と同じであった。特に重点目標2の3つの項目で、「生徒の表現力の向上」が、教員全員が向上していることを自覚していることが分かった。

○保護者による学校評価アンケート

【資料1】

保護者の評価も昨年度に比べると10項目のすべての項目が上がった。学校に対する肯定的な評価がかなり上昇した傾向がある。無回答に関しては学校での生徒状況に対して見えていない部分が多いと感じる。

重点目標1 基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、学習意欲を高め、確かな学力の定着を目指す。



A:十分達成している B:達成している C:改善を要する D:緊急に改善を要する

【評価項目の取組状況】

○シラバスの充実と活用

教科横断的・縦断的な指導計画の策定を行い、実行した。

○教師の指導力向上

学習力サポートテスト等や生徒の授業評価に基づく授業改善推進プランに全教科で取り組んだ。日頃の授業では、言語活動の充実に力を入れることや「晴海中ミニマム」(全教科で取り組む指導上の留意点)の改訂を行い、共通実践することを再確認し進め、全教員が授業改善を行った。

○個に応じた指導の工夫と場の設定

少人数指導、朝学習等のスパイラル学習、夏季補充教室、放課後補習教室などの個に応じた場の設定、提供を行った。

【評価指標～成果と課題】

○全教員での見せ合う授業は行うことができなかったが、授業研究を月例で行った。その後の研究協議会では分科会ごとの意見交換・ワークショップ型研修を行い、その後発表し合うことで全体で共有していき、意欲的に授業改善を進める体制を取れた。

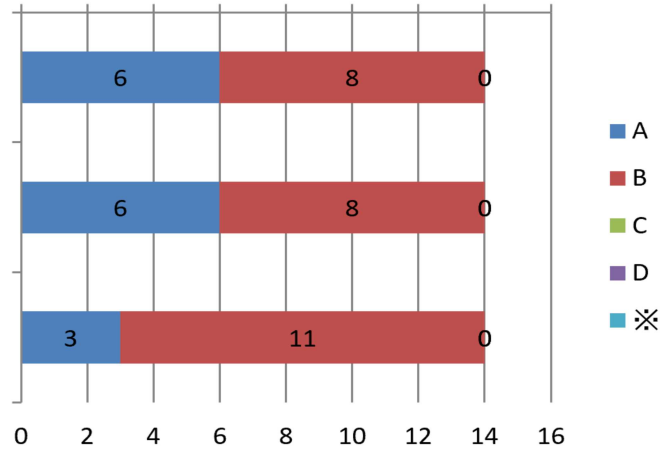
○生徒の学習意欲や授業態度は安定してきて、学習の定着率の肯定的評価が全体で95%を超えた。授業評価での教員の授業に関する構成・技術・熱意に関してわずかに伸びが見られた。【資料3】

○生徒が自主的・意欲的に目標を設定し、各種検定に積極的に挑戦し、資格を取得する生徒が多く見られた。3年生の英語検定では、3級以上が50%を超えた。【資料4】

○各教科において、言語活動を中心とする表現力を高める指導が進められたか。

○体験活動や創造的な活動を通して生徒の自己表現力が高まったか。

○生徒の表現力が向上し学習や学校生活がより豊かなものとなったか。



重点目標2 表現力の向上を図り、学んだことを学習や生活に生かす。

A:十分達成している B:達成している C:改善を要する D:緊急に改善を要する

【評価項目の取組状況】

○表現力の向上を図る教科指導

教科等では言語活動の充実に取り組んだ。教科等の相互関連性をおさえた全体計画を作成し、基礎基本を活用して思考力・判断力・表現力等を培う学習活動を進めることができた。

○様々な表現活動の場の設定と適切な支援

総合的な学習の時間等での体験学習と探究的な学習、行事等における創造的な活動・協同的な学習での多様な表現活動を通して生徒が生かされる場面が多く見られた。

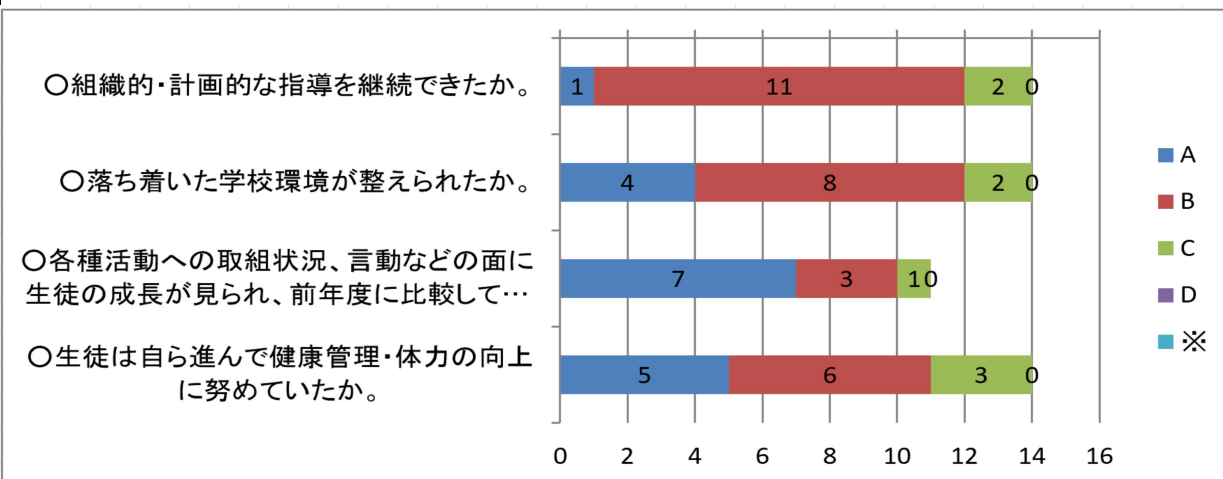
【評価指標～成果と課題】

○各教科等での、「授業ダイジェスト」の定着、グループ学習による話し合い活動やまとめの発表を行うなど、言語活動を中心とする表現力を高める指導が進められた。

○体験活動や創造的な活動を通して生徒の自己表現力の向上が見られた。今後は、表現活動を苦手とする生徒への働きかけを工夫する必要がある。挨拶については、生徒会本部役員を中心としたあいさつ運動や、各委員会の工夫のもと続けているが、まだ定着しているという状況に至らず、挨拶があふれる学校に近づけていきたい。

○生徒の様々な作品などから、表現力が向上し学習や学校生活がより豊かなものとなったと感じる場面が多い。文化的分野での活躍で生徒が表彰されることが増えたのも成果のひとつである。

重点目標3 学習環境を整え、心のふれあいを通して活気にあふれ、豊かな心と健



やかな心身をはぐくみ、「共生」、「博愛」の精神を育てる。

A:十分達成している B:達成している C:改善を要する D:緊急に改善を要する

【評価項目の取組状況】

○学校生活の基盤となる環境の整備

授業規律は、全学年とも定着してきている。環境美化については、教室整備をはじめ学校の周りもきれいに整えられている。生徒会本部役員や生活委員会によるあいさつ運動も進められているが、まだ低迷している。今後も取組を継続し、あいさつの溢れる学校にしていきたい。

○人権教育の推進

自己理解を深めさせ、差別・偏見の解消に努め、一定の成果は出ている。生徒会いじめ撲滅キャンペーンなど生徒の自主的な取組が継続しているが、課題は残っている。今後も意識して学校生活を送る生徒が増えるように、「共生」「博愛」の取組(道德教育、体験学習、奉仕活動を柱に)を、続けていく必要がある。

○生徒理解と適切な支援

校内通級生については、担任、保護者と一緒に個別指導計画に基づいて、各学期に話し合いをもって進めてきた。教育相談活動は、スクールカウンセラーによる一年生全員面談を行った。それを基に、適宜個に応じた相談活動を推進していきたい。キャリア学習は、晴海総合高校との連携で工夫改善が続けられている。

○健康管理及び体力の向上

マイスクールマイスポーツの取組として、学期1回の7分間走を実施することができた。生徒も真面目に取り組み、成果が上がった。部活動は、各部とも一生懸命に取り組み、都大会に出場する部がみられた。連合陸上大会は、教職員全員が生徒の指導に当たり、成果を上げられた。

【評価指標～成果と課題】

- 生徒指導に当たっては、教員間で協力して取り組むことができおり、落ち着いた学校環境を整えるよう努力した。今後も継続していくことが必要である。
- 各種活動への取組状況、言動などの面に生徒の成長が見られた。校内に「共生」、「博愛」の精神が浸透するよう、今後もよい教育環境の維持を図っていく。
- 多くの生徒は自ら進んで健康管理・体力の向上に努めていた。今後も増進させていきたい。

家庭や地域との連携

- 学校だより、学年通信、ホームページ、掲示板などで学校の取組を積極的に発信するように努めた。
- 小中連携日の体験授業、部活動体験などを通して母体小学校との連携を図った。晴海総合高校との連携では、吹奏楽部の合同演奏、剣道部の合同練習等の交流だけでなく、本校文化祭オープニングにおける晴海総合高校のダンス部の参加、本校3年生全員の晴海総合高校への訪問など、キャリア学習として継続した連携ができた。
- 複合施設の特徴を生かし、福祉体験、職場体験、保育体験、ボランティア活動などの交流活動を通して地域との連携を深めることができた。来年度も継続発展させていく。

- 土曜学校公開日、学校説明会等で本校の特色ある教育活動を積極的にアピールし、理解を深めた。保護者の参加状況も良好であった。しかし、家庭の状況が様々であるため、今後も理解と協力を得る努力を継続していく。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートの結果（全18項目）

【資料1】

- 平成25年度から中央区のガイドラインによるアンケートを使用しているが、保護者にとっては評価場面が限られるので、自分の子どもを通しての学校評価となり、教育活動全般を評価するのが難しいと思われる。評価18項目全体にわたって「無回答・わからない」という回答で、ほぼ20%以下であったが、20%を超える項目については3つ、30%を超える項目は2項目は2つ「地域の行事やボランティア活動」「コンピュータや図書室の活用」だった。
- 70%以上の肯定的評価を得た項目が16項目あり、その内80%以上の項目は13項目あり、「学習内容」「適切な評価」「生徒への励まし」「生徒の学校生活」「健康・体力の増進」「集団生活のルールなどの規範意識」「人権を尊重する指導」「保護者への適切な対応」「地域や家庭との連携や協力体制」「安全対策」「行事・学校公開」「学校の文書」「特色を生かした教育」であった。特に「生徒の学校生活」「安全対策」「行事・学校公開」「学校の文書」では、90%以上のかなり高い肯定的評価が得られた。
- すべての項目で肯定的評価が70%以下で努力が必要なものは、「生徒の地域・ボランティア活動への参加」、「コンピュータや図書室の活用」である。特に「コンピュータや図書室の活用」では65%を下回っているので、改善策が必要である。

生徒アンケートの結果（全14項目）

【資料2】

- 肯定的評価が80%以上は12項目で、「授業内容理解」「学校の雰囲気」「先生への対応」「挨拶」「規則遵守」「公共物の取り扱い」「集団ルールや他者への関わり」「部活動」「行事への積極的参加」「給食」「体験学習の意義」「モーニングタイムの参加」であった。
- 否定的評価が最も多かったのは、「苦手教科の克服」ではおよそ55%の生徒からしか肯定的な評価が得られず、来年度も大きな課題の一つである。次に「自分の体力づくり」が次いでいる。重点目標にも関わってくるもので、全教育課程で折に触れて意識化し推進していく必要がある。

自己評価の結果

- ほとんどの項目において自己評価の結果は肯定的である。教職員の意識は高い。
- 各評価項目中、肯定的評価が7割を下回るのは「授業時数の年間計画」である。
- 本校の取組のモーニングタイム・7分間走の進め方に課題を感じている。

3 今後の改善方策

今年度の学校評価等を基に、次のような改善方策を講ずる。

(1) 学習指導の改善

- 基礎基本を定着させ、それを活用して思考力・判断力・表現力等を育てるための授業改善を継続し、より一層の向上を目指す。
 - ・言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等の育成と学力の向上に全教科で取り組み、授業改善を図る。
 - ・学力向上プランを通して、全教科で授業改善に継続して取り組む。
 - ・多様な表現活動の場を学校行事や総合的な学習の時間を軸に工夫し、表現形態や表現方法の工夫、表現力の評価方法の研究を全教科で継続して進める。
 - ・モーニングタイムをスパイラル学習や読書習慣・読解力増進の一環として進めていく。
- 作成した教科縦断的・横断的指導計画を基に、本校の教育活動の充実に努める。
 - ・「横断的・縦断的指導計画」を作成し実施することで、学習が生徒にとって意味のある基となるようにする。
 - ・様々な学習の機会を通して、「キャリア教育」の充実を図る。
- 個人カルテの活用の仕方について共通理解を図るとともに、個に応じた支

援、様々な学習機会の提供を工夫する。

- ・「個人カルテ」を基に、生徒の適性を踏まえた個に応じた指導を推進する。
- ・区非常勤講師、ALTを活用した授業（少人数指導やチームティーチング）や補充学習の充実、朝学習の充実を図る。

(2) 生活面での改善

○健やかな心と体を育成するための取組や豊かな人間性を育成するための基盤となる規範意識を強化し、礼節の体得を図る取組を継続し、より充実した学校生活を送れるようにする。

- ・7分間走の取組、健康と安全の教育の取組、食育の取組、保健体育の取組を柱として、健やかな心と体の育成を目指す。
- ・表現力の育成を通して「共生」の基盤となる「自尊感情」「規範意識」や「コミュニケーション能力」「人間関係調整力」を高め、学校生活の充実を図る。
- ・道徳、特別活動を中心に、あらゆる機会を通して規範意識の強化や礼節の体得を図る取組を行う。生徒への意識付け、働きかけを続け、生徒自身が目的意識をもち自治活動ができるようにする。よい面を積極的に評価して、本校の生徒としての自覚と誇りを高める。

○教育活動と家庭への啓発を強化する。

- ・スクールカウンセラーや「個人カルテ」を活用して相談活動の充実を図り、一人一人の生徒のよさを生かす指導に努める。
- ・本校生徒の課題である家庭学習の習慣を身に付けさせるため、家庭への啓発を強化する。
- ・土曜学校公開日の工夫を図り、保護者が学校に関わる機会を充実させ、共に子どもを育てていく姿勢を高め家庭との連携がより深められるように努める。